

「ここまできた復興/次なる課題は？」

主催/NPO 美しい街住まい倶楽部・NPO 都市住宅とまちづくり研究会

住宅復興が比較的早く進んでいるいわき市豊間地区、東松島市あおい地区の状況を、支援しているそれぞれのNPO関係者等から報告し、実情を認識するとともに、これからの課題を語りあいます。

期日:3月28日(土) 14:00~17:00(13:30開場)

●申込み ktakamiz@nifty.com へメールをお願いします

会場:(一財)日本立地センター会議室

千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館8階 お茶の水駅等より5分 地図 <http://www.jilc.or.jp/map/>

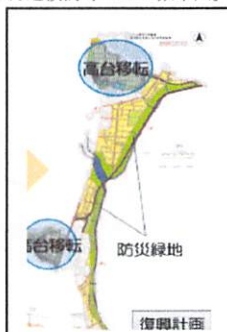
定員30名程度/参加費:無料

報告者:佐藤俊一(美しい街理事長)、杉山昇(としまち研理事長) コーディネーター:梶川義実、高見澤邦郎
●当日連絡先 090-8700-8334(梶川)

いわき市豊間地区の計画経緯と復興の概要

620世帯約2000人のまちが津波に襲われ、亡くなった方87人、全壊家屋430戸。震災の年の8月に「ふるさと豊間復興協議会」設立、秋から東京支援グループがお手伝い。協議会事務所の建設をワークショップで実施。以後今春まで計画検討、コミュニティ再建検討等のWS数十回。

復興事務所(左)と建設中の仮設店舗↓



2014年秋に災害公営住宅・豊間団地(192戸)完成、地元の希望者は全員入居。本年1月に仮設店舗グランドオープン。高台移転を含む区画整理と堤防・防災緑地を2、3年がかりで建設中。今後も暮らしの再建、地域のセンター施設設置・運営等を課題として東京からの支援継続を予定。

東松島市あおい地区の計画経緯と復興の概要

東松島市で津波に襲われた数地区の人々が、海岸から約3km奥の仙石線・東矢本駅の北側一帯約22haの田んぼを埋めて市の復興土地区画整理事業で宅地造成し、防災集団移転促進事業273区画と災害公営住宅整備事業307戸、計580世帯の新しいまちを目指している。面的事業の中でも大きな地区規模だ。移転世帯は2012年11月12日に「東矢本駅北地区(後に“あおい地区”)まちづくり整備協議会」を設立した。協議会は、各専門部会を設け、具体的な方針を検討するとともに、重要な項目については、協議会員によるワークショップ(“井戸端会議”と言っている)を行ってきた。その結果等を踏まえて、再度、専門部会、役員会、総会という手続きを経て、活動を進めている。

2014年11月に災害公営住宅第1期47戸が入居、今年4月には、宅地の引渡しもはじまる。協議会のテーマもハードからソフトへ移行しつつあると言えよう。



本企画は、NPO法人復興まちづくり研究所が主催する下記リレーイベントのうちの、第5回として開催します。リレーイベントの詳細は、事務局;NPO復興まちづくり研究所 <http://www.fukkouken.org> でご確認ください。〒169-0075 東京都新宿区高田馬場三丁目1番5号 サンパティオ高田馬場501号

TEL:03-6908-6475 FAX:03-6908-6476

EMAIL:jjin-fmk@vesta.ocn.ne.jp

阪神・淡路から20年/中越から10年/東日本から4年

災害に学ぶ/備える/語りつぐ

復興まちづくり・リレーイベント2015/全7回

今年は、阪神・淡路大震災から20年、中越地震から10年、東日本大震災から4年が経過した節目の年です。そこで私たちは、阪神・淡路以来の取組みをふまえ、「災害に学ぶ/備える/語りつぐ」と題し、3・11を念頭に、以下のようなリレーイベントを実施します。阪神・淡路の復興は成ったのか、中越の山間地でいま何が進んでいるのか、原発事故の被災地・福島復興とは何か、さらに、首都直下地震への備えはどうあるべきか、などをこのリレーイベントを通じ、改めてとらえ直し、これからの災害対応に活かしていきたいと考えます。